



サーバス九州

日本サーバス 九州支部会報 No.134 2009年6月14日

支部長 中崎 忍

1. 会議関連の報告

1) サーバス九州支部会議及び懇親会報告

九州支部における年一回の支部会議を北九州市で行い、2008年度活動報告や2009年度の活動、予算等を議論しました。その後、楽しい懇親会をもちました。以下にその概要を示します。

支部会議録

日時：2009年4月4日(土)12:30時受付、12:45～16:00

会場：北九州市会員宅

住所：北九州市小倉北区

出席者：22名；大分(6名)；熊本(4名)；佐賀(1名)；福岡(4)；宮崎(朝名7名)

議事内容

1) 支部長挨拶のあと出席会員の簡単な自己紹介があった。

2) 2008年度活動報告

支部長より2008年度活動報告及び国内会議の報告が配布資料によりなされ、質疑応答があった。(この会報の8-Iに資料あり)

3) 2008年度会計報告及び監査報告

会計より決算の報告及び監査より監査の報告がなされ質疑応答の後、2008年度の決算が承認された。

4) 2009年度活動方針及び活動計画

支部長より2009年度の活動計画案が配布資料で説明され別紙の内容で承認された。(8-IIに資料あり)

5) 2009年度予算

支部長より2009年度の予算案が配布資料により提案され承認された。

6) 2010年度以降の役員選出(支部長、副支部長、会計、会計監査)

支部長より今年末で2年の任期を二期終了することになる説明があり、会員より4年ごとに各地区より支部長を選出するのが良い、次期は長崎地域からではどうかとの意見があり、現支部長が次期支部長について長崎地区に相談する方向となった。



懇親会

日時：2009年4月4日(土)支部会議終了後、16時半より19時まで

場所：小倉駅近く(徒歩5分)の「和風居酒屋 竹家」

サーバス受け入れ体験談やサーバス旅行体験談などを通じた自己紹介も含めて楽しい懇親会となった。(参加者：19名)

2) 日本サーバス国内会議報告

サーバスの国内会議が、関東地区と関西地区で交互に毎年開催されていますが、今年は東京都大田区生活センター会議室で2009年3月28日13:00から29日12:00に開かれました。九州支部からはサーバス会長と支部長が参加しました。

2. 九州支部例会のご案内

サーバス九州支部例会

大分県豊後大野市三重町の鍾乳洞のすぐ近くで「バーベキュー&宿泊」で支部例会を計画しました。大分地区世話人Kさん夫妻のお世話で開催します。1976年(昭和51)に発見された、世界的にも珍しい稲積水水中鍾乳洞が近くにあり、快適なところです。2億数千万年前に形成された鍾乳洞が、約8万5000年前の阿蘇山大噴火で水没したものといわれています。

皆さんどうぞお気軽にご参加ください。

例会内容：バーベキュー、サーバス受入れ及びサーバス旅行体験情報交換

1) 日時：7月25日(土曜日) 13時30分から26日(日曜日)11時まで

2) 場所：大分県豊後大野市三重町中津留300

名称：稲積白山川キャンプ村

(稲積水中鍾乳洞駐車場より150m)

三重町の豊後大野市役所より南西へ718号線、45号線にて

稲積水中鍾乳洞駐車場まで約10km 車で20分)

URL: <http://www.inazumi.com> ; 電話: 代表 0974-26-2468

3) 宿泊：ロッジ4棟(6人x4棟)24人宿泊可能

4) 会費：男性 3,500円、女性 2,500円

ロッジ宿泊料、飲食代(夜&朝)を含みます。

5) 集合場所：参加者は豊肥線三重町駅から南東100mの「スーパーマルミヤ」の駐車場に13:00にお集まりください。

列車をご利用の方は、豊肥線大分行き三重駅着 12:19, 12:42

豊肥線豊後竹田行き三重駅着 12:04, 12:34, 12:57 の列車があります。

申込み：サーバス九州事務局へ電子メール、電話、又は郵便にて

ご参加・ご欠席の旨をお知らせ下さい。皆様のご連絡をお待ちしています。

申し込み締め切り：2009年7月15日

3. 会員情報

1) 九州支部会員数 会員数55名(2009年6月現在)

内訳：福岡10、佐賀1、長崎6、大分16、熊本5、宮崎14、鹿児島2、沖縄1

2) 新会員紹介

2月以降3名の方(大分県2名、宮崎県1名)が入会されました。日本のホストリスト2009年には新入会員の情報は掲載されていませんので、トラベラーの紹介等を宜しくお願いします。

4. トラベラー受け入れ報告

○ 会員(鳥栖市)

期間：2009年2月下旬；PS (韓国、大田、家族4名)

我が家では2月下旬に韓国の太田から PS さんのご家族（4人）がステイされました。ご主人は公務員ですが定年前で退職し、今年の春から自宅で針灸院を開業されております。奥様は専業主婦、娘さんと息子さんはそれぞれ中学生と小学生。PS さんご一家のご希望は「回転寿司」と「ラーメン」を食べることと日本の伝統的な家屋を見学することでした。私たちは一緒に佐賀市に行き、回転寿司レストラン、続いて美味しいラーメン店に立ち寄り、最後に佐賀市歴史民俗館を訪れました。お陰さまで喜んでいただきました。家に帰ると、ご主人は家内と私に得意の針治療をしてくださり、ありがたいことでした。

後日、PS さんからのメールによると、針灸院は大いに繁盛しているそうです。

○ 会員(佐世保市)

期間：2009年4月20日～4月22日；AW（米国、カリフォルニア、女性）

カリフォルニアの平和活動家 AW を受け入れました。広島と長崎を見たいということで長崎に来たわけですが、70代後半の女性です。

駅に迎えに行った時、そのついでに佐世保の米軍基地を案内しました。日本にある基地が「思いやり予算」（日本人の税金による貢ぎ金）によって維持されていることやグアムの基地建設も日本人の税金によって行われようとしていることを話しますと、「日本はアメリカの基地があるおかげで潤っているとばかり思っていた。そのように聞かされてきた」という返事でした。平和活動家でもこの認識であることに私も驚きました。「英文の資料を送ってください。自分のネットを通じて全米に発信します」ということでした。その資料が少なく困っているところです。日本の平和運動もアメリカ国民の世論に訴える運動が必要だと感じたことでした。

翌日は長崎に同伴し、原爆の遺構を案内して回りました。「子供たちまで焼き殺すなんて、アメリカは どうしてこんなことができたのだろうか？」「どうして人間にこんなことができるのだろうか？」と何回も独り言を言っていました。「帰ったら活動家たちに報告し、オバマ大統領にも手紙を書き、核兵器廃絶の政策を加速させる手立てをとる」と言っていました。

写真説明；平和公園でこの婦人が後ろの子供の像を拭いていました。理由を聞いたら、亡夫は美術の教師で、この子は彼の記憶にある爆死した妹を彫ったものだったとのことでした。



○ 会員(宮崎市)

期間：2009年3月31日～4月2日；MC&MP（フランス、姉妹 66, 62 歳）

今回、久しぶりにフランス人女性二人を受け入れることになりました。フランスなまりの英語であつたら、理解が難しいだろうし、こまったなあと少々心配でした。実際に来られると、その心配は吹っ飛びました。ゆっくりときれいな発音で、私たちはとても助かりました。このお二人は、四歳違いの楽しい姉妹でした。お姉さんの方は、私と同じ年だということがわかって、よけいに親近感が湧きました。青島神社、鶴戸神宮、日南の飢肥城等へ行きました。すべてを、とても喜んでくださり、楽しい時間を過ごすことができました。

お姉さんの方は、写真を撮るのが大好きで、あちらこちらパチパチと時間が掛りました。一方、妹さんの方は、さっさと歩き二人の性格の違いがそここに現れて又笑いを誘いました。私も入れて女性三名と私の夫で四名です。女性三名かしましで大にぎわいでした。プレゼントに、夫は家事ができるようにとサロンエプロンをいただきました。これがまた夫によく似合っていて、私たち三名で大喜びしました。私、家事から解放されるかなと、ちょっと期待しましたが・・・。



一方フランスの生活事情をお聞きしました。有給休暇について、お姉さんのご主人は定年までは、仕事が忙しくて休暇を全然取れなかったそうです。定年後すぐに休暇を取ってお二人で日本へ来られたそうです。

また、お産について、妊娠している頃から乳母(一歳未満の赤ちゃんを持っている若いお母さん)を探します。生まれたらその方に月6万円位で朝から夕方まで面倒を見てもらうそうです。日本のお産費用を言いましたらびっくりされました。フランスはただだそうです。何気ない台所仕事を手伝ってもらったら、フランスとの違いに感心されていました。お二人は、二泊されましたが、あっという間に終わった感じでした。次は、鹿児島から福岡へ行かれるということでした。宮崎駅までお送りし、またの再会を約束して別れました。

○ 会員(宮崎市)

期間：2009年4月18日(土)～4月21日(火)；KL (フランス、女性 29)

一見日本の女性?の風貌と日本人的な静かな感じのフランスの女性で我が家に3泊され、娘のような感じとともに過ごしました。将来は語学の教師を目指し、また、プロのライターをも夢見ている方で、日南海岸、青島、宇鶴神宮を案内しながらフランスと日本の日常生活、教育などの違いを語り合いました。

彼女はオーストラリアにも5ヶ月滞在したことがあり、その際は CouchSurfing システムを利用したとの事でした。このサーフィンのことを聞いてみると、国際的な旅行者同士の宿提供を行っており、インターネットの利用で簡単に入会でき、組織の ID とパスワードを使ってホスト探しやホストについての訪問者からの評価を閲覧できるようになっているのを実際に我が家の端末で見せてくれました。現在、メンバーが100万人を超えており若者の旅行者間では大人気のようです。

このことを彼女から聞き、若い人たちがサーバスに入会し活発な活動をするようにするには、インターネットを駆使した活動が是非必要になってきているのをつぶさに感じた次第でした。このインターネットを利用した会員相互の情報管理システムは、一人の管理者では到底できないので、ネットワーク管理、メール管理、データ管理に優れた複数のボランティア会員が必要と感じます。一方、CouchSurfing に比べて SERVAS が優れている点を若い人に知らせる活動も必要と感じさせてくれた KL さんでした。

KL さんが滞在されたのを機会に、宮崎地区の世話人の AE さんの提案で、宮崎の会員が一品持ち寄りで Kate さんを囲んで12名の楽しい交流会をもちました。



○ 会員(宮崎市)

期間：5月12日～14日；MP (スペイン、マドリッド、女性)

マドリッドからの47歳の editor をしている女性を受け入れました。私がヨーロッパ旅行している間に、ステイ依頼のメールが入りました。旅行先のスペイン・バレンシアから返事をしたのですが、彼女の兄弟がバレンシアに住んでいて会いに行くこともあり、私宅に関心を持たれたようです。

綿密な計画を作成され、私が旅行から帰った次の日の12日からのステイでした。12日の午後に宮崎駅に迎えに行き、そのまま鶴戸神宮、青島を案内しました。鶴戸神宮での運玉投げは残念ながら的中しませんでした。浸食された海岸の洞窟に作られた社と青島は、彼女の携行しているガイドブックにも載っており、関心を示されました。

2日目は、綾町の吊り橋、照葉樹林自然博物館や県立総合博物館を案内しました。午後私は会議がありましたので、新規会員であるスペイン出身の M さんにも急遽おいでいただき、案内していただきました。食事は日本食を何でもおいしそうに食べてくれました。いったん口を開いたら止まらない、とても陽気な方

でした。旅行の先々でコンピュータを見つけては M とステイ日程の打ち合わせをするなど、お互いの連絡が大変でしたが、私が旅行してきたばかりのスペインの話もでき愉快的な時間を過ごしました。

5. サーバス旅行報告

○清川御嶽神楽大会

飯塚市 会員

今年4月4日～5日にかけて、国内ホームステイをしました。場所は、大分県清川村、Kさんのお宅です。今年はじめに、以前清川で神楽祭りを見た話を友人にしたところ、とても興味を持ってくれて「4月に神楽を見に行こう!!」ということになりました。そこで、久しぶりに甲斐さんに連絡をとったところ、「だったうちに泊まったらいいよ」と声をかけていただきました。私とサーバス会員ではありませんが友人2名、Kさんのお宅に1泊2日お世話になりました。

4月4日の夕方にK家到着。甲斐さんと奥様の出迎えを受けました。挨拶の後居間の方で、今までどんなホームステイを受け入れたかなどのお話を楽しく聞かせていただきました。K家には変わった訪問客が多い様子で、何の情報もなく車椅子の奥様を伴ったホームステイを受け入れた話や、1ヶ月以上も滞在した「お肉大好き」の青年の話など、とても楽しかったです。その後夕食前にKさん手作りのヒノキ風呂に3人で入りました。壁が石で作られたお風呂は、雰囲気があって楽しいお風呂でした。

それから、息子さんと彼女さんが帰ってきて一緒に夕食を囲み、明日見る神楽のお話などを聞かせていただきました。息子さんは、御嶽神楽で面をかぶって踊る姿を拝見したことはありましたが、素顔を見るのは初めてでした。私達3人の間では、お会いする前から「神楽会のプリンス」といって勝手に盛り上がっていたので、プリンスに会えてとても光栄でした。

翌日は、奥様で作ってくださったお弁当をもって、朝早く甲斐さんが場所取りしてくださっていた会場へ。会場に着くとKAさんがビデオを設置して待ち構えていました。KAさんにお会いするのも久しぶりでした。KAさんは小倉でのサーバス会合の後、大分まで帰って来られたとのこと、その行動力がすごいなあと感心しました。

友人2名は、初めて見る神楽に大興奮でした。神楽はどれもすばらしかったですが、やっぱり我らのプリンスが一番かっこよかったです。帰りの車の中でも、「やっぱプリンスが一番良かったね～。盛り上げ方が違うよね～」と口々に語りながら帰りました。

最近、サーバスの会合に参加することもなく、サーバス旅行に行ったり、DAYホストを引き受けることもなく、サーバスからやや遠ざかっていたのですが、今回ホームステイをしてサーバスの暖かさを久しぶりに実感しました。またこれから、サーバス会員として、いろいろと活動できたらいいと思っています。私と友人2名までもお世話してくださったKファミリー、神楽の写真やDVDを作成してくださったKAさん、有難うございました。また10月の夜神楽には、友人達と一緒に遊びに行きたいと思います。



○ ～ 地中海の風に吹かれながら ～

宮崎市 会員

このタイトルは、何かで見たような気がするのですが、思い出せません。2009年4月7日から5月11日にかけて5週間、スペイン、南フランスを中心にヨーロッパ7か国を旅しました。妻の都合で昨年同様、今回も一人旅でした。サーバスステイとユース hostel 宿泊をミックスしながらの手作りの旅でしたが、それだけにいろいろなハプニングもありました。数々の大ピンチ、たくさんのすばらしい出会いや交流、考えさせられたことなど

枚挙にいとまがありません。サーバステイを中心にしながら、その報告をします。

① セビーリャ(スペイン)4月8日～4月10日:VV 宅ステイ

8日～フランクフルト経由でマドリッドから AVE(スペイン新幹線)でセビーリャのサンタ・フスタ駅に8日の19時半に到着。Victor の出迎えを受け、歩いて約10分の自宅へ(Victor は既にビジネスマンをリタイア)。休息の後、タバコ工場跡、スペイン広場やヒラルダの塔などを駆け足で見学。ライトアップされ夜陰に浮かぶ広場や塔は、幻想的でした。

その後、復活祭の行列(プロセシオン)を見学。ものすごい人出で身動きができません。おそらく何万人という見物人でしょう。三角帽子を頭からすっぽりかぶった信者たちがキリストやマリアの像を乗せた大きな神輿を夜通し担ぎ、引いて行きます。人々の信心深さや熱気に圧倒されました。いくつかのプロセシオンを見学した後、午前1時に帰宅しました。VV と翌日の計画を話したりしていたら、就寝が2時頃でした。

セビーリャ訪問目的のひとつが、復活祭の行列(プロセシオン)を見ることでした。当初の計画段階ではステイ先がなかなか見つからなかったのですが、VV に引き受けていただいて実に幸運でした。彼は、サーバススペインの会長とリージョナルコーディネーターを務めています。大変誠実な人柄で、事前に私の希望を聞いて資料を送ってくれ、スペイン人のあいさつ習慣について予め教えてくれたりしました。彼はスペイン語しか話さないとの事でしたので、どうなることかと思っていましたが、重要なことについては、自宅のパソコンでグーグルの翻訳機能を使って意志疎通しました。文明の利器を使って、知恵を働かしてゲストを迎え入れてくれた彼のおもてなしをありがたい、感謝しました。



9日～1人でカテドラル、ヒラルダの塔、アルカサス、サンタ・クルス(かつてのユダヤ人街)などを見学。イスラム文化の影響を受けた建物内外の装飾やパティオ、庭園がとても綺麗でした。市内の街並みも白やベージュの建物の色と地中海の空の青さとコントラストがとても美しく、しばらくたずんで見とれてしまいました。街の道路の真ん中には、ローマ時代の水道橋の遺跡も残っていました。

16時に帰宅後、2時間ほど“昼寝”をした後に Victor と外出。近くに住んでいる娘の R とその友達2人とパブで会いました。愉快的な人たちで話がはずみました。若者の結婚観や親としての結婚観などにも話が及びました。

10日～朝早く家を出て、近くのカフェテリアで簡単な朝食。こちらでポピュラーなキューロという長い形をした揚げパンがおいしかったです。駅で後日のマドリッド行き鉄道の予約を済まして、プロセシオンを見学。昨夜とは違った荘厳な行列でしたが、これを見るために約2時間立ちっ放しで待ちました。

お昼はサンタ・クルスの一角にあるパブで、昨夜会った R とその友達と再会、ビールと食事、おしゃべりを楽しみました。その中で、アンダルシア政庁の公務員である R の勤務時間は8:00～15:00(7時間勤務)、会計士をしている友達 D(男性)は9:00～14:00まで前半勤務、14:00～16:00は昼食でいったん帰宅して16:00～19:00まで再び後半勤務するという日本とはだいぶ違った話を聞くことができました。また、Dに「先ほど再会した時にあなたは、13時過ぎなのに good morning と言ったが？」と聞くと、スペインではお昼を食べるまではそのように言うとのことで、ちょっと驚きでした。

パブを出て5人でサンタ・クルスやパティオを見学。冗談を言いあいながら散策を楽しみました。別れ際にお互いにスペイン式のハグをしました。ラウラがキスしていいかというので、もちろん OK! 時間が瞬く間に過ぎてしまって、名残惜しく感じました。サーバスならではの素晴らしい出会いができたことを幸せに思いました。

16時に帰宅して、このあと V と一緒に彼の友人であるコルドバの C(女性)の家に向かいました。

② コルドバ(スペイン)4月10日～12日:C 宅ステイ

V の紹介でステイすることができました。彼女はセラミック陶芸家で、コルドバ在住の日本人とともに創作活

動しており、10数年前には福岡にも来たことがあるそうです。

10日～Cの家はコルドバ駅から歩いて約10分。荷物を降ろして、3人でプロセシオンを見学しました。セビーリヤのそれに比べると小規模かなという感じがしましたが、それでもすごい人出でした。この後、レストランで食事をしましたが、ここで大失敗をしでかしました。

トイレを探したが、入口が一つしかない。プレートにして始まる表示があるのが、ちょっと気にはなったのですが、スペイン語の解らない私は男女兼用と思って用を済ませて出てきたところ、待っていた2～3人の女性とウェイターから「ここは女性用だ、男性用は通路の反対側」と言われました。平謝り、笑って許してもらえたが恥ずかしいことしきり。



11日～私1人で有名なメスキータ、アルカサス、ユダヤ人街、ローマ橋、カラオーラの塔、コレデーラ広場など見学。大モスクや美しい大庭園、花に彩られた家々の窓がとてもきれいでした。コルドバ駅で後日の座席予約を済まして、19時に帰宅。Cの作ったスペイン料理をいただきましたが、これが大変おいしかったです。私も、持参してきた白玉粉と黄粉で団子を作ったのですが、おいしいと好評でした。

食事後にCが彼女の陶芸作品写真集を見せてくれました。いくつかの公的施設には、彼女の作品が展示してあるとのことで、彼女の幅広い芸術文化活動をうかがい知ることができました。Vとは、お互いリタイアした者同士ですので年金や給料の話などをしました。こうして打ち解けた話をしながらの、楽しいディナーでした。明日の午後は、いよいよ二人とお別れして、次の目的地に向かって出発の日。「今度は照文の妻を連れて来なさい、3泊以上していいから」と言ってくれました。

12日～朝食後、近くにあるViana宮の見学にVictorと行きました。パティオと庭園、花々がとても美しいところでした。12:13の鉄道でマドリッドへ。

③ マドリッド、トレド、バレンシア(スペイン)4月12日～16日:ユースホステル泊

マドリッド～フェルタ・デル・ソル広場でガイドブックを広げていたら、50歳前後の日本人女性から写真撮影を頼まれました。2週間一人旅をしているとのことで、お互いの旅の話を20分から30分立ち話。久しぶりに日本語を話しました。夕食を誘われた言葉があったのですが、鈍感な私はその時それに気付かず女性との食事のチャンスを逃してしまいました。



トレド～「スペインの京都」「16世紀で歩みを止めた町」と言われるほどあって、中世のたたずまいを思わせる古い建物が色濃く残っています。昨年行ったドイツのローテンブルグを連想しました。トレドは迷路のような路地が多く、市内地図があっても歩くのが大変でした。昼食に入ったレストランは、奥さんが日本人。スペイン人と結婚して大阪からこちらに来て28年。翌日も来て夕食を注文していたら、日本語を聞いた食事の青年が話しかけてきました。やはり大阪からで、スペイン語留学でトレドに来て8か月とのこと。旅の話などいろいろな話をしました。別れ際に青年から手を差し出してきて握手。予期しないトレドの中の“日本”でした。

バレンシア～ユースホステルで、船乗りを48歳でリタイアして世界を旅行している現在58歳のオーストラリア人男性、スペイン人ではあるがバスク人と自己紹介したスペイン北部から来た40歳代の建築学の大学教授と同室になりました。話題は多岐に渡りましたが、オージーイングリッシュの聞き取りが大変でした。また、スペ

インの「民族地図」を実感させられたときでもありました。

中央市場を見学。肉、野菜、果物、お菓子などありとあらゆるものが売られており、それは活気に溢れておりました。魚屋のおかみさんに写真を撮らせて欲しいとジェスチャーで伝えると、笑顔でポーズまでとって快く応じてくれました。小さな出来事ではありましたが、言葉は通じなくても人との心の触れ合いを感じた瞬間でした。

写真をあちこち撮りましたが、バレンシアも青空と建物の色とのコントラストがとてもきれいで、絵になるような街でした。

④ バルセロナ 4月17日～21日 :IC 宅ステイ

17日～バレンシア発11:05の電車に乗りバルセロナ・サンツ駅へ。昨年、私の家に息子のSとステイしたIが出迎えてくれました。地下鉄に乗ってアパートの自宅へ。アパートといっても日本のそれとは全然違い、部屋数が多くて間取りもゆったりしています。8階にある自宅からは、市内を一望できました。彼女が家事をする間、私は一人で近くにあるサグラダ・ファミリアに行きました。側で見る壮大な建築物、未だに建築作業が続けられ、そのための材料が内部の観光コースの目の前にうず高く積み上げられていました。

19時に帰宅。Iが市内のサーブメンバーを集めている自宅近くのコミュニティセンターに向かいました。私のために11人のメンバーが集まってくれました。毎月1回、ここで定例会をしているとのこと。3時間ほどお喋りした後、皆でバーレストランに場所を移しました。バルセロナならではの55度のアルコールを味わい、スペインオムレツや肉料理を食べながら楽しく愉快地に過ごしました。スペイン人は本当に愉快な人たちだと思いました。帰宅したのは午前1時でした。



18日～午前中ガウディで有名なグエル公園へ。すごい数の観光客。広大な公園は抽象的なアートがいっぱいでした。15時までに帰宅しなければならないので、足早に見学。15時からIの自宅で友達が約10人集まったの昼食を兼ねた potluck party がありました。それぞれが趣向をこらしたエスニック料理がテーブルにたくさん並べられ、大変おいしくいただきました。ここでも、私の作った白玉だんごが大好評でした。

party は、私のためにIが企画してくれたものです。またまた、賑やかなおしゃべり、スペイン語の部分は解らないが、時々側に座っている人が英語で通訳してくれました。とにかく皆、一生懸命力を込めて楽しそうに話している姿に圧倒されました。パーティは延々夜の9時まで続きました。この後一端帰って、夜の11時から何人かのメンバーで近くのホテルで“夕食”するので、よかったら来ないかということになりました。6人でしたが、飲んでしゃべってその後も飲み屋をして2次会に行き、帰ったのは午前4時ごろでした。スペインの人たちの行動形態とエネルギーには驚いたり感心したりしました。

19日～この日は午後Iの招待でII、Sと一緒にサッカーの試合を見に行きました。

今朝まで飲んでいたので10時に起床。1人で外出して、歩いて20分ほどの港方面を散策。コロンブスの塔、カテドラルを見て14時に帰宅後、試合の会場であるオリンピックスタジアムに地下鉄で行きました。私にとっては初めて見る公式の試合です。スタンドでの熱狂的なファンの力の入った応援には圧倒されました。IとSもひいきのチームを大声で応援しています。結果は、2人が応援するチームが1-0で勝ち、私は祝福の握手を2人としました。

20日～IとSは今日から出勤と学校なので、1人でモンツェラット山に行きました。途中電車の乗り場や乗

車券の買い方が分からず、まごつきました。壮大な景観と修道院は息をのむばかりでした。

明日は出発の日なので、お礼に近くのレストランに2人を夕食に招待しました。S はカタツムリ料理が好物とのこと。カタツムリといっても、海で獲れる貝に似ていて日本で見るものとは全然違います。私も初めて食べました。

21日～大ピンチが素晴らしい出会いに！この日は大ピンチが素晴らしい出会いにつながった日でした。事は私が次の目的地であるフランスのアルルに向かうバルセロナ市内の乗車駅を間違えたことから始まります。

Isabel と一緒に家を出てサンツ駅に着き、電光掲示板で私の乗ろうとする列車を探しますが見当たりません。Isabel が駅の係員に尋ねると、別の駅のフランセ駅だと言うのです。乗車券を確認すると確かにそうです。私は頭から、数日前に降り立ったサンツ駅から出発するものと、決めてかかっていたのでした。フランセ駅は Isabel 宅からすぐ近くで、歩いても10分ぐらいのところだったのです。出発時刻は8:45なのに、時は既に8時25分。あと20分しかありません。幾つかあるタクシー乗り場を転々としてようやく重いバックパックを背負ったまま乗車。さらに悪いことには、ちょうど通勤ラッシュで車がなかなか進みません。Isabel がスペイン語で運転手に事情は話しているはずですが、英語であと何分かかかるか尋ねるが、なかなか通じません。出発時刻が5分後に迫った時に尋ねると、あと7～8分かかると言うのです。もう駄目だ、アウトだと思いました。定刻を2分過ぎて駅に到着、タクシーメーターは10ユーロ余だったのですが、20ユーロ出してお釣りももらわずに駅のプラットフォームに駆け込むと、電車が2本止まっているではありませんか。居合わせた係員に「どれがタルゴ(アルル行きの電車名)?」と大声で尋ねると指差しました。荷物の X 線検査を無視して走る向こうには、車掌が2人私に向かって手招きをしているではありませんか。乗車券の確認を受け、乗車することができました。

あとから考えるに、私はファーストクラスでしたので、多分乗車名簿をチェックしていたのだと思います。車掌に聞くと、私を待っていたというのです。私が乗車するとすぐに動き始めました。定刻を3分過ぎていました。日本だったら、絶対アウトだったでしょう。

着席後も、走りに走ったので息があがってなかなか止まりません。通路向かいの席に座っていた女性から「Are you OK?」と声をかけられました。自分のことを心配してくれる人がいる、この一声で私は気分が非常に楽になりました。私は出発駅を間違えたことを説明し、そのために電車の出発時刻が遅れたことをお詫びしたところ、車内の15～16名の乗客が一斉に「Oh, no. OK」と言ってくれたのです。これで私の気持ちは完全にほぐれました。これが日本だったら、どうでしょう? 多分、私は白い目で見られたことでしょう。話はまだ、続きます。

私の計画では、Cerbere 駅で乗り換える予定だったのですが、ふと車外に目をやると Cerbere と書かれた駅名表示がゆっくりとプラットフォームから遠ざかっていくではありませんか! 「しまった、どうしよう。次の駅で降りて引き返すか?」引き返しても時間的余裕はあったのですが、同乗者に聞くと「このまま乗っていて構わないよ。この電車はもっと先まで行くし、心配ないよ」とのこと。さらに話をしていると、先ほど私のことを心配して声をかけてくれた女性のご主人が「私たちもアルルまで行く」と言うではありませんか。「ありがたい、あなたは神様だ」と私が言うと、彼は帽子を脱いでお金を入れてくれという仕草をしました。私も胸ポケットから財布を取り出す仕草をすると、車内が大爆笑になりました。話は、まだまだ続きます。

電車が途中からスピードダウンし、次の駅では停車したまま20分経っても、30分経っても動かないのです。時間調整にはおかしいなと思っていたところ、鉄道スタッフが来て説明を始めました。「電気の故障で電車が動かない。バスを用意するので、全員荷物を持って降りて次の駅まで移動してください」とのこと。みんな重い荷物を持って大移動。私は、同じアルルに行く夫妻の加勢をしながらバスに乗り込みました。バスから降り立った駅でアルル行きの便について彼が尋ねるが、ここはフランス、窓口の女性に英語が通じない。側にいたフランス人青年が通訳して、やっとのことで電車の確認ができました。その間に、お互いに自己紹介。夫妻はバンクーバーから来たカナダ人で、5週間かけてスペイン、フランス、イギリスを旅行しているとのこと。この夫妻なくして私は、この日は目的地に辿りつけなかったでしょう。本当に幸運でした。乗り換えた車中でいろいろ話をしましたが、アルルでの私の滞在先を聞くので、お世話になった私から「今夜、よかつたら一緒に食事しませんか」と言ったところ、夫妻も「私たちも同じことを考えていた。明日の夜7時に待ち合わせをして食事しよう」ということになりました。

22日～翌日、ゴッホの絵画にもあるアルルのレストランで食事しながら話をしましたが、夫妻は留学生を自宅に引き受けているとのこと。2～3か国の留学生を引き受けたが、日本人が一番礼儀正しいと言っていました。

た。中崎支部長から作っていただいたサーバスの私の名刺を電車の中で渡していたのですが、大変関心を持ったようで帰国したらホームページにアクセスしたいと言っていました。メールアドレスを交換して、日本に来たら、バンクーバーに来たら是非お互いの家にステイをと言って楽しい語らいのディナーを終えました。

それにしてもこの日は、ピンチと偶然と幸運と出会いが重なった大変な展開でした。スペインでファーストクラスの座席予約をしていなかったら、バルセロナで電車が私を待っていてくれなかったら、Cerbere 駅で降車していたら、このような素晴らしい出会いはなかったでしょう。

⑤ アルル、マルセーユ、ニース(フランス)4月22日～26日:ユースホステル泊

マルセーユ～事件「命をとられる～！！」

23日の午後マルセーユ駅着。宿泊のチェックイン後、まだ日が高いので旧港まで歩く。港までの大きな通りと風光明媚な港周辺は観光客で溢れていました。歩いていくと、バリケードで囲った直径20メートル位のスペースがありました。出入口が開いており、通行禁止のような表示もなかったので、入って手摺に腰掛けて休憩していました。目の前では何かイベントでもあるのか、暑い日だったので上半身裸になった作業員が舞台作りらしき作業をしていました。暑いのに大変だなと思いつつ、しばらくしてその場を立ち去ろうとした時です。後ろの方から私に誰か男が声をかけます。フランス語なのでさっぱり解りません。去年の旅行で、私は偽警官に出くわしたことがあるので、とっさにそのことが頭をよぎり、こんな人の多い所で物盗りかとは思いましたが相手にせず歩いていたら、いきなり私の胸ぐらをつかんできました。今までに経験したことのない大ピンチです。私は必死で「ポリース、ポリース」と今までに出したことのない大声で声を限りに叫びました。すると、別の男が現れて私の右腕をつかみ、2人で引きずっていきます。私はどこかのビルに引きずり込まれてパスポートや現金をとられ、もしかしたら殺されるのではとその瞬間いろいろなことが頭をよぎりました。先ほどの開いていたはずの出入口が閉まっていたが、そこに来たら私を解放しました。

怒り心頭に達し、振り返りながら奴らを睨み返していたら、3人の青年が通りかかり「あれは私服警官だ、あなたが立入禁止の所に入っていたからだ」と言うのです。だとしたら、せめて excuse me ぐらい言ってくれればいいものを。私としては、怒りの収まらない納得できない事件でした。

ニース～ユースホステルで韓国から来た青年と同室でした。90日かけてヨーロッパ、エジプトを旅行しているとのこと。各都市にある「コリアンハウス」に泊まったり、携行しているWIFIパソコンで深夜に運行する安い航空券を見つけるなどして経費の工夫をしていました。国、人によって様々な旅行の仕方があるものだと思います。

⑥ ベローナ(イタリア)、インスブルック(オーストリア)、ミュンヘン(ドイツ)、 フランクフルト(ドイツ)4月27日～5月6日:ユースホステル泊

ベローナ～27日ニース駅10:02発特急に乗りミラノ経由でベローナに向かう。コンパートメントではアメリカ人男性、フランス人の女性と男性と同室。皆、陽気な人たちで賑やかな談話室と化しました。途中から中年女性も乗り込んできて、さらに賑やかになりました。英語、フランス語の混ざった会話で聞き取れないところもありました。電車が遅れて、ミラノでの乗り継ぎに間に合わず予定より1時間遅れてベローナ着。

翌日は、市内散策。ベローナには2年前に妻と来たのですが、パッケージツアーの強行日程だったので、ゆっくり見るゆとりがありませんでした。

フランクフルト～インスブルック、ミュンヘンを経て日程調整のため5月5日から1泊しました。去年の旅行では素通りしたので、見てみたい気持ちもありました。繁華街のカイザー通りを歩きましたが、ショッピング街という感じで私の関心を引くものは特別ありませんでした。

⑦ ブリュッセル(ベルギー)、ロンドン 5月6日～11日:ユースホステル泊

ブリュッセル～またもやピンチ！日本大使館へ、そして出会い

5月6日フランクフルトからケルンを経てブリュッセルへ。ブリュッセルには去年も来ましたが、今回はロンドン行きのユーロスターに乗車するために立ち寄りました。イギリス入国に際し確かめておきたいことがあったので、到着したブリュッセル南駅で鉄道インフォメーションに行ったところ、イギリスはシェンゲン協定に参加していないのでVISAが必要というではありませんか。私は真っ青になりました。窓口係員が住所と電話番号を調べてくれて、すぐ日本大使館に行くように言います。時刻は午後3時。重い荷物を背負って必死になって急

ぎました。街角で何人かに方向を聞きながら、ようやく大使館に到着。受付には日本語の流暢なベルギー人男性と日本人女性がいました。

事の次第を説明し、VISA 発給がロンドンからの出発に間に合うか尋ねました。男性は女性に確認しながら言いました。「イギリスへは VISA は必要ないでしょう！」と。仮に必要だとしても発給するのはイギリス大使館なので、念のため確かめましょうと電話をしてくれました。結果、そのとおり不必要であることが確認できました。その時の私の安堵感は例えようがありません。力が抜けるようでした。男性が「地獄に仏」に思えました。冗談で手数料を払いたいと言うと、「要らない」「いや、どうしても払いたい」のやりとり。

この一部始終を大使館に私用で訪れていた年輩の日本人女性が見聞きしていました。私のアクセントから、宮城県出身かと聞いてきました。女性は「宮城県出身だが、私のアクセントは九州ととられる」と言います。そんなことからお互いの会話が発展し、女性がブリュッセルに住んでいること、私の今夜のホステルの近くに住んでいることなどが分かり、地下鉄の乗車券購入の手伝いや時間があるのなら市内の案内をしたいなど親切にしてくださいました。別れ際に私のサーバス名刺を渡し、女性の名前と住所、メールアドレスを交換しました。さらに女性は、自分のバッグから1枚の自家製パンを取り出し、「これは自分が作った特製ジャムのサンドウイッチだけ」と渡してくれました。

見知らぬ土地での、ましてや日本から遠く離れた外国での女性の一声は本当にありがたく私を励ましてくれるものでした。この日は、すっかり間違い情報に振り回され、観光の時間もつぶれてしまいました。ホステルでサンドウイッチを食べましたが、そのおいしかったこと、感謝しながらいただきました。

さて、その翌日、ユーロスターステーションの待合室でのこと。チェックインしようと腰をあげかかったその時、私に声をかける女性がいます。昨日の女性がわざわざ見送りにきてくださったのです。昨日の行きずりのピンチに陥っていた私に対する一声、親切がどんなにありがたかったかのお礼を言いしばらく話しました。女性はベルギーで書道に関する芸術文化活動をしており、ヨーロッパ支部長をしているとのことでした。

女性は弁当を作ってきたので、食べてくださいとバッグを差し出しました。再度の親切に恐縮しました。同時に、旅先での人情がこんなにも身に滲みるものなのか、この歳になって身をもって体験しました。

ロンドンのホステルで一人弁当を広げると、のり巻きおにぎり・日本茶・果物がたくさん入っていました。そして、そのおいしかったことといったらありません。久しぶりの日本米です。「おいしい、おいしい」と何回も独り言を言いながら、女性の身に余る親切をも噛みしめながらいただきました。

間違った情報にすっかり乗せられてしまい、冷静さを失って気が動転してしまった私でしたが、しかし、それがいい方向に連鎖したのです。バルセロナでの失敗と出会いもそうでしたが、ちょっと大袈裟かも知れませんが、人生の展開って何がどうなるのかわからないものだと思えた旅行でした。

ロンドンでは、13年前の旅行で見損なった大英博物館とその周辺スポット、ケンジントン宮殿、ポートベロマーケットなどを観光しました。

帰途ヒースロー空港の成田行き待合室で、白いマスクをした日本人集団を見ました。最初はどのようなのだろうと思いましたが、日本で新型インフルエンザが流行っているのも、パッケージツアーの一団が多分旅行会社の指示でマスク着用していたのでしょう。何だか異様な光景でした。機内でもずっと着用したままでした。着陸前には全乗客に質問票が手渡され、成田空港では検疫係官によって記載事項の確認が行われました。



セビーリヤ:復活祭でのプロセシオン



バルセロナ:ホテルのバーにて

今回の旅行を要約すると

失くしたもの : 帽子と本の葉、体重4Kg
失くしそうになったもの : 命
得たもの : 友情、厚い人情、たくさんの親切、あらたな友人、
教えられたこと : 「旅は冒険なのよ」カナダ人女性のことば
言葉ではない心の大切さ

旅先での逸話や触れ合いは、この他にもまだまだたくさんありました。

6. 会費納入のお願い

今年度の会費の振り込みをまだされていない方は、下記の口座へ振込をお願い致します。

郵便振替先 口座番号 記号: 01950-6; 番号: 36441
加入者名住所: サーバス九州事務局
郵便番号 889-2153
宮崎市学園木花台南 1-2-9

7. トラベラー受け入れ及びサーバス旅行レポート等のお願い

トラベラー受け入れ又はサーバス旅行をされた方からの体験談・報告を下記の事務局へお寄せ下さい。会員間の情報交換になりますので、手紙又は電子メールなど短くても、また、写真添付もよいですのでお願い致します。

8. 2009 年度支部会議に関する資料 (議事録は1 頁にあり)

I. 2008 年度日本サーバス九州支部活動報告 (2009 年 4 月 4 日支部会議承認)

1. 行事

1) 九州支部会議

日時: 2008 年 4 月 5 日(土) 15 時—17 時 サーバス九州支部会議

2. 場所: 会場: 博多第一ホテル 会議室(2階)

出席者: 18 名

内容: 支部長挨拶、2007 年度活動報告、決算報告、監査報告、2008 年度活動計画、2008 年度予算決定、各県の世話人を選出、国内会議報告など; 総会の後、懇親会を近くの和食どころ「博多いねや」で行った (参加者 15 名)。

1) 九州支部例会及び忘年会

日時: 2008 年 12 月 20 日(土)、18 時より

場所: 鹿児島県出水市、ホテルウィングインターナショナル出水

出席者: 9 名

内容: サーバス受け入れ及びサーバス旅行体験情報交換など

2) 日本サーバス国内会議

日時: 2009 年 3 月 28 日 (土) 13:00~29 日 (日) 12:00

場所: 東京都大田区生活センター第 5 会議室

出席者: 本部・支部役員

内容: 2008 年度事業・決算報告、各支部の活動報告、2009 年度活動計画、予算、新会長決定など。28 日 17:30 より懇親会。

2. サーバス九州会報の発行

No. 131 (2006年6月18日)、No. 132 (2008年11月28日)、
No. 133 (2009年2月20日); これらの会報は日本サーバスホームページ URL
<http://www.servas-japan.org/> の「九州支部」に掲載している。

3. 会員動向

1) 会員数 52 名 (2009 年 2 月末現在; 対前年 変化なし)

内訳: 福岡 10、佐賀 1、長崎 6、大分 14、熊本 5、宮崎 13、鹿児島 2、沖縄 1)

2) 2008 年 2 月以降の新入会員 5 名、復会 0 名、休会 2 名、退会 3 名

3) トラベラー認定者数: 8 名 (会員 7 名; 非会員 1 名)

4) 外国へのサーバス旅行者: 13 名 (延べ人数 20 名、正会員 12 名、非会員 1 名)

5) 外国からのトラベラー: 受け入れ人数 38 名 (延べ人数 96 名)

国別内訳: 韓国 15、アメリカ 4、フィンランド 4、フランス 3、ドイツ 3、スリランカ 3、オランダ 2、スペイン 2、デンマーク 1、アフガニスタン 1

4. 会員数拡大

新入会員を 4 名迎えることができた。

5. 支部会議や支部例会に人を招いて懇談会や講演会

支部会議や例会での懇談会や講演会は実施できなかった。

6. 九州支部のホームページの充実

会報 No. 131~No. 133 の掲載をした。

7. 海外との交流

韓国済州島へ 6 月 27 日(金)から 6 月 29 日(日)の 2 泊 3 日で九州の会員 8 名で出かけ、済州島のサーバス会員たちと交流を行った。(詳しくはサーバス九州会報 No. 132 を参照)。

8. 会計報告

2008 年 1 月 18 日に九州支部会計監査の朝稲幹彦会員に収入支出決算等の会計監査を受けた。その概略は、2007 年度繰越 301,545 円を含めた 2008 年度の収入額は、508,045 円、2008 年度の総支出額は、186,695 円である。それで、2009 年度への繰越額は、315,421 円となる。詳細は次頁。

II. 2009 年度日本サーバス九州支部活動計画 (2009 年 4 月 4 日支部会議承認)

「日本サーバス」の基本方針を理解の上、下記の項目の活動に努める。

「サーバス」は世界平和を築き、善意と理解、そして相互の寛容を促進することを目的として設立され、世界的規模の営利を目的としない、非政府のホストとトラベラーの協力的ネットワークである。世界およそ 118 カ国・地域に広く組織を持つ非営利の国際民間親善団体である。「日本サーバス」の目的:主に会員同士のホームステイによる交流を通じて、善意、相互理解及び相互の寛容を深めることによって、世界平和の促進に寄与することをその目的とする。

1. 2009 年度日本サーバス九州支部の活動方針
 - 1) サーバスの良さを多くの人達、特に若い人達に紹介しましょう。
 - 2) 支部会議や支部例会に人(会員、非会員を問わず)を招いて懇談や講演をとり入れ支部の活性化を図りましょう。
 - 3) 国内の会員、特に近い中国・四国支部の会員との交流を図りましょう。
 - 4) 九州支部のホームページの充実を図りましょう。
トラベラーが旅行しやすいようなルートと各地区の案内を英文や写真・図で紹介する。
 - 5) 海外との交流(日韓との交流)をすすめる。
2. 2009 年度行事計画
 - 1)九州支部例会
 - (1)時期: 7月又は8月 場所: 大分地区
 - (2)時期: 10月又は11月 場所: 大宰府又はその近辺
 - 2)日本国内会議 2010年3月27日、28日、場所: 関西
 - 3)九州支部会議 2010年4月3日(土) 場所: 熊本地区
3. 支部広報発行計画
5月、10月、1月
4. 各県の世話役の確認及び各地区での活動
5. その他の議題
 - (ア)サーバス九州会員の名刺作り
Servas International のロゴマークを使うことについては、日本サーバス国内会議で了承されていることから、各人独自の名刺に使うことができることを確認した。支部長が日本語・英語の名刺の例をしました。必要な会員は支部長に連絡することとなった。
 - (イ)日本サーバスのパンフレット作成
支部長を中心に作成することとなった。
 - (ウ)韓国サーバス済州島支部との姉妹締結について
姉妹関係を結ぶことは控え、個人レベルでのホームステイを通じて交流を進め、九州支部の例会・懇親会等に案内して交流を深める。旅行認定証 (LOI) は各人が必要である。
 - (エ)九州支部会報のホームページ掲載について
個人情報保護条例に基づき個人が特定できる内容は記述しないが、写真について掲載を望まない会員はその旨を会報編集者(支部長)に伝えることとなった。九州支部会員に配布する会報については、従来どおりとする。個人情報が掲載されるので取り扱いは十分に気をつける必要がある。